

長岡税務署長賞

税が守る日本の未来

新潟県立長岡商業高等学校

三年 吉岡 優李

税金がどのように社会に役立っているのか、興味関心を持っている人は一体どれくらい存在するのだろうか。嫌々払ってそこで終わりの人が多いと感じる。税金が我々にもたらしてくれるメリットにもっと目を向け、納税者としての責任感を持つことが必要だと考える。

税金には、社会保障、公共事業を始め、様々な用途があるが、中でも私は社会保障関係費に注目している。少子高齢化が進んでいる現在、高齢者を支える若者の負担が増加しているという問題が発生しているが、そこで重要なのが社会保障制度だ。年金給付や医療保険を受ける世代が増える一方で、生産年齢人口が減少することで、税金の徴収が追いつかない事態が発生している。

そのような状況の中、最近気になるニュースを見かけた。企業のグローバル化を利用し、節税策を駆使することで法人税の徴収額を抑える、というものだ。「節税策」という考え方が存在することに驚いた。税金とは、社会のために有効利用されるものであり、我々もその恩恵を受けているはずではないか。税金のおかげで教育を受け、医療にかかり、安心して生活できていることを忘れてはいけない。「節税」「脱税」といった、目先の利益にとらわれず、将来の日本について想像してほしいと感じる。

また、税金が無かったら日本はどうなってしまうのか考えることも、納税に対する重要性を見出す上で大切なことであるだろう。日本の秩序は崩壊し、不衛生な環境によって病人も増大してしまう。力の強い者が傲慢に振る舞う世の中では、警察も消防も存在しない。改めて、税金の大切さに気付く。税金は、「幸せな未来への投資」だと思う。そのメリットに目を向け、納税者としての誇りと責任を感じてほしい。また、社会保障関係費の財源確保が重要視される現在、一人一人の税金に対する意思が非常に大切である。日本の未来を想像し、税金を通して国民が喜びを分かちあえる国になることを願う。